



## 2025年12月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場会社名 ナイル株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5618 URL <https://nyle.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 飛翔  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 コーポレート本部本部長 (氏名) 長澤 斉 TEL 03 (6682) 9692  
 定時株主総会開催予定日 2026年3月30日 配当支払開始予定日 —  
 有価証券報告書提出予定日 2026年3月27日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年12月期の連結業績 (2025年1月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期	6,730	23.1	△105	—	△142	—	△152	—
2024年12月期	5,465	—	△677	—	△695	—	△703	—

(注) 包括利益 2025年12月期 △152百万円 (—%) 2024年12月期 △703百万円 (—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年12月期	△17.87	—	△30.4	△4.7	△1.6
2024年12月期	△82.38	—	△121.6	△23.9	△12.4

(参考) 持分法投資損益 2025年12月期 —百万円 2024年12月期 —百万円

(注) 2024年12月期より連結財務諸表を作成しているため、2024年12月期の対前期増減率については記載していません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期	3,142	443	13.6	49.90
2024年12月期	2,912	591	19.9	67.76

(参考) 自己資本 2025年12月期 425百万円 2024年12月期 578百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年12月期	△257	△108	225	1,094
2024年12月期	△1,091	40	193	1,234

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2026年12月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

### 3. 2026年12月期の連結業績予想 (2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,500	11.4	3	—	△38	—	△74	—	△8.67
	～7,900	～17.4	～250	—	～211	—	～167	—	～19.56

(注) 2026年12月期の業績予想については、レンジ形式により開示しております。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.3「1.経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2025年12月期	8,536,800株	2024年12月期	8,536,800株
2025年12月期	ー株	2024年12月期	ー株
2025年12月期	8,536,800株	2024年12月期	8,536,667株

(参考) 個別業績の概要

1. 2025年12月期の個別業績 (2025年1月1日~2025年12月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期	5,368	8.7	△140	ー	△166	ー	△167	ー
2024年12月期	4,940	△5.8	△654	ー	△670	ー	△675	ー

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期	△19.58	ー
2024年12月期	△79.09	ー

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
2025年12月期	2,693	457	457	619	16.3	51.47	51.47	
2024年12月期	2,451	619	619	619	24.7	71.06	71.06	

(参考) 自己資本 2025年12月期 439百万円 2024年12月期 606百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
連結損益計算書 .....	7
連結包括利益計算書 .....	8
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(会計方針の変更に関する注記) .....	11
(セグメント情報等の注記) .....	11
(1株当たり情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当期の経営成績の概況

当社グループは「幸せを、後世に。」のミッションの下、社会に根付く事業作りを通じ、時代を超えて人々の幸せに貢献します。また、豊かで幸せな未来を次の世代に紡いでいくため、ビジョンを「日本を変革する矢」とし、絶え間なき自己変革を繰り返しながら、日本を良くするための事業に挑戦し、日本のDX課題を解決する「産業DXカンパニー」として、各種事業を展開しております。

創業以来、当社グループはDX及びマーケティングを中心にインターネットを活用した各種技術・ノウハウを蓄積し、その強みを活用して、「自動車産業DX事業」及び「ホリゾンタルDX事業」を運営しております。今後も様々な領域で画期的な事業を創出し、デジタルマーケティングの知見を駆使した事業づくりを通じて、社会をより良く変えていくべく取り組んでまいります。

当連結会計年度における日本経済におきましては、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加に加え、堅調な企業収益を背景に内需を中心とした緩やかな回復が継続いたしました。一方で、物価上昇の長期化による個人消費への影響や、米国の通商政策、為替相場の変動など、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクもあり、先行きについては引き続き注視する必要があります。

このような環境のなか、自動車産業DX事業における大幅な成長と第4四半期連結会計期間でのセグメント黒字化、及びホリゾンタルDX事業における旺盛な需要を背景とした増益確保が寄与し、当社グループの収益体質は大きく改善いたしました。この結果、第4四半期連結会計期間において四半期純利益を計上するとともに、通期の営業損失についても前年同期比で572,223千円改善し、営業損失を大幅に縮小いたしました。

その結果、当連結会計年度における売上高は6,730,288千円（前年同期比23.1%増）、営業損失は105,746千円（前年同期は営業損失677,969千円）、経常損失は142,110千円（前年同期は経常損失695,954千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は152,532千円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失703,266千円）となりました。セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### ①自動車産業DX事業

自動車産業DX事業は、当社のコアコンピタンスであるマーケティングの知見を活かし、非合理が多い車販売市場のDXを「オンライン」と「オフライン」の双方からアプローチすることで、自動車業界全体のDXを推進しております。本事業を通じて「自動車流通DXの経済圏」の形成を主導し、車を「買う・乗る・売る」までのカーライフサイクル全体を包括的に支援する体制を構築しております。

オンライン領域では、マイカーサブスクリプションの「カルモくん」を運営しております。「カーリースカルモくん」は、店舗を持たず全ての手続きをオンラインで完結できるスキームを構築し、個人向けに新車・中古車のカーリースを提供しています。マイカーを月額1万円台から持てる日本最安値水準の価格設計に加え、1年～11年の柔軟な契約期間、さらには車検・税金・メンテナンス費・自動車保険・故障保証など、ライフスタイルに応じた付帯サービスも定額で選択可能とすることで、LTVの最大化を実現しています。

ビジネスモデルとしては、初年度に広告宣伝費を投入して新規顧客を獲得し、契約時における初期紹介手数料としてスポット収益を計上することで、広告投資の即時回収を図っております。その後は契約期間中の月額課金により安定収益を得つつ、契約満了後の車両再リースや買い替えにより追加収益を得る、3層構造の収益モデルとなります。このモデルにより、広告投資の即時回収と、中長期的な月額収益の積み上げを両立しています。

また、当事業は長期契約と非常に低いカスタマーチャーンレートにより、契約残高が安定的に積み上がるビジネスモデルとなっており、蓄積された契約残高に基づき、将来にわたって継続的な売上創出が見込まれる強固な基盤を構築しております。

一方、オフライン領域では、連結子会社である株式会社パティオを通じて、地域密着の対面サポートや整備・板金機能といった実店舗ならではの安心感を提供しております。同社に対し、ナイル独自のDXやAIのアセットを注入することで、生産性と収益性を高める店舗経営へと深化させております。今後は、この「自動車販売店DXモデル」を全国の中古車販売店へ水平展開するロールアップ戦略を推進し、自動車流通における市場のアップデートを加速してまいります。

当連結会計年度においては、前期に連結子会社化した株式会社パティオにおけるPMIの進展と当期を通じた業績寄与に加え、商品拡充や月額収益の着実な積み上げ、さらには顧客獲得効率の改善が奏功いたしました。これらの取り組みにより、売上高・利益ともに大幅な成長を達成し、特に第4四半期連結会計期間においてセグメント黒字化を実現するなど、収益体質への転換が鮮明となりました。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は4,457,117千円（前年同期比41.5%増）、セグメント損失は230,527千円（前年同期はセグメント損失740,928千円）となりました。

#### ②ホリゾンタルDX事業

ホリゾンタルDX事業は、創業以来培ってきたDXやデジタルマーケティングに関する技術・ノウハウを強みにし

て、顧客企業に対するコンサルティングサービスを軸にしつつ、生成AI活用支援やメディア運営、デジタル広告ソリューションなどを通じた包括的なサービスを展開しています。顧客の課題・ニーズに応じて、当社が持つソリューションを組み合わせ、戦略から実行まで一貫して支援を行っています。

また、2025年11月には、生成AI時代の深刻な実働人材不足という課題解決に向け、プロフェッショナル・ネットワークによる戦略実行支援サービス「Nyle X Partners」の提供を開始しました。

当連結会計年度においては、顧客ニーズに即したソリューション拡充と事業運営の最適化を推進いたしました。売上高については、前連結会計年度を下回る推移となったものの、足元の旺盛な需要を背景とした第4四半期連結会計期間の大幅な成長が寄与し、営業利益については前年を上回る増益を確保いたしました。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は2,273,171千円（前年同期比1.9%減）、セグメント利益は458,072千円（前年同期比4.6%増）となりました。

また、当社は、2025年5月14日付「株主優待制度の導入に関するお知らせ」のとおり、株主優待制度を導入しております。当該優待制度の取り組みを通じて、株主還元及び企業価値の向上を図ってまいります。

## （2）当期の財政状態の概況

### （資産）

当連結会計年度末における流動資産は2,612,211千円となり、前連結会計年度末に比べ271,629千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が57,617千円減少、売掛金及び契約資産が120,108千円増加、商品が173,154千円増加したことによるものであります。固定資産は530,056千円となり、前連結会計年度末に比べ41,996千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が6,227千円増加、無形固定資産が6,139千円減少、投資その他の資産が42,083千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,142,268千円となり、前連結会計年度末に比べ229,632千円増加いたしました。

### （負債）

当連結会計年度末における流動負債は1,563,138千円となり、前連結会計年度末に比べ330,276千円増加いたしました。これは主に買掛金が59,234千円増加、短期借入金が29,900千円増加、1年内返済予定の長期借入金が151,712千円増加、契約負債が32,512千円増加したことによるものであります。固定負債は1,135,161千円となり、前連結会計年度末に比べ46,408千円増加いたしました。これは主に長期借入金が44,641千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,698,299千円となり、前連結会計年度末に比べ376,684千円増加いたしました。

### （純資産）

当連結会計年度末における純資産合計は443,968千円となり、前連結会計年度末に比べ147,051千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する当期純損失を152,532千円計上したことによるものであります。

## （3）当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は1,094,654千円となり、前連結会計年度末に比べ140,316千円の減少となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により減少した資金は、257,877千円（前年同期は1,091,436千円の減少）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失140,816千円の計上、棚卸資産の増加167,482千円によるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は、108,012千円（前年同期は40,044千円の増加）となりました。これは主に、定期積金の預入による支出90,000千円によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により増加した資金は、225,807千円（前年同期は193,900千円の増加）となりました。これは主に、長期借入れによる収入580,000千円、短期借入金の返済による支出450,100千円によるものであります。

## （4）今後の見通し

自動車産業においては、EVシフトや保有手段のサブスクリプション化といった構造変化が加速しております。これらを背景にオンラインでの車購入比率が高まる一方、自動車業界全体ではIT化の遅れや人手不足が課題となって

おり、産業全体のDX需要が拡大していくことが予想されます。また、DX市場においては、社会構造の変化や生成AIの急速な普及に伴い、企業のデジタル変革やインターネットを活用した成長戦略への投資は、より重要度の高い経営課題となっております。

こうした環境下において、自動車業界を垂直的にDX化する「自動車産業DX事業」及び、顧客企業のDX推進を横断的に支援する「ホリゾンタルDX事業」を展開する当社グループは、巨大かつ長期的な事業的追い風を捉え、持続的な成長を実現していく方針です。

2026年12月期の連結業績につきましては、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間において達成した全社営業黒字化を確固たる転換点とし、通期での営業黒字定着と、利益創出フェーズへの移行を目指してまいります。

自動車産業DX事業においては、顧客とニーズに合わせた商品ラインナップの拡充をし、顧客獲得効率の向上に努めるとともに、オフライン領域での株式会社パティオとの更なるグループシナジー創出に努めてまいります。ホリゾンタルDX事業においては、新規リード増加のため自社メディア強化及び提供可能なソリューションの増加を行い、引き続きサービス提供体制の拡充に努めてまいります。

しかしながら、自動車産業DXにおいては、新規商品投入の進捗や顧客の取り込み、国内自動車メーカーの生産・出荷状況など、ホリゾンタルDX事業においては、顧客の取り込みや競合の伸長など外部環境の変化により当社の業績に与える影響が変動する可能性がございます。そのため売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益につきましては、レンジ形式による通期連結業績予想開示を採用しております。今後業績の詳しい見通しが出た場合には開示をしてまいります。

以上の結果、2026年12月期の業績の見通しとしましては、売上高7,500百万円～7,900百万円、営業利益3百万円～250百万円、経常利益△38百万円～211百万円、親会社株主に帰属する当期純利益△74百万円～167百万円を見込んでおります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,283,072	1,225,454
売掛金及び契約資産	382,541	502,650
リース債権	29,905	44,712
商品	377,963	551,117
仕掛品	11,870	6,137
その他	264,453	293,818
貸倒引当金	△9,225	△11,680
流動資産合計	2,340,582	2,612,211
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	33,582	34,346
機械装置及び運搬具 (純額)	5,806	2,746
工具、器具及び備品 (純額)	6,687	13,995
リース資産 (純額)	7,112	8,328
土地	61,800	61,800
有形固定資産合計	114,989	121,216
無形固定資産		
のれん	38,458	32,616
その他	1,043	745
無形固定資産合計	39,501	33,361
投資その他の資産		
繰延税金資産	56,159	46,923
その他	361,402	328,554
投資その他の資産合計	417,561	375,478
固定資産合計	572,053	530,056
資産合計	2,912,635	3,142,268

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	75,482	134,716
短期借入金	300,000	329,900
1年内返済予定の長期借入金	358,397	510,109
リース債務	2,445	3,065
未払法人税等	2,337	7,659
契約負債	181,084	213,597
賞与引当金	14,546	22,734
その他	298,570	341,356
流動負債合計	1,232,862	1,563,138
固定負債		
長期借入金	1,068,595	1,113,236
リース債務	11,989	13,755
資産除去債務	8,168	8,169
固定負債合計	1,088,752	1,135,161
負債合計	2,321,615	2,698,299
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	1,271,747	596,582
利益剰余金	△703,266	△180,634
株主資本合計	578,480	425,948
新株予約権	12,538	18,020
純資産合計	591,019	443,968
負債純資産合計	2,912,635	3,142,268

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
売上高	5,465,135	6,730,288
売上原価	3,306,595	4,284,650
売上総利益	2,158,539	2,445,638
販売費及び一般管理費	2,836,509	2,551,384
営業損失(△)	△677,969	△105,746
営業外収益		
受取利息	155	1,527
その他	2,413	494
営業外収益合計	2,569	2,022
営業外費用		
支払利息	19,617	33,061
為替差損	589	2,098
支払手数料	—	3,000
その他	347	226
営業外費用合計	20,554	38,386
経常損失(△)	△695,954	△142,110
特別利益		
新株予約権戻入益	394	1,294
特別利益合計	394	1,294
特別損失		
投資有価証券評価損	3,000	—
特別損失合計	3,000	—
税金等調整前当期純損失(△)	△698,560	△140,816
法人税、住民税及び事業税	2,390	2,480
法人税等調整額	2,315	9,236
法人税等合計	4,706	11,716
当期純損失(△)	△703,266	△152,532
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△703,266	△152,532

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
当期純損失 (△)	△703,266	△152,532
包括利益	△703,266	△152,532
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△703,266	△152,532

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

(単位: 千円)

	株主資本				新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
当期首残高	595,534	3,578,252	△2,893,487	1,280,299	11,774	1,292,073
当期変動額						
新株の発行	724	724		1,448	△434	1,013
減資	△586,258	586,258		—		—
欠損填補		△2,893,487	2,893,487	—		—
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)			△703,266	△703,266		△703,266
新株予約権の発行				—	194	194
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				—	1,003	1,003
当期変動額合計	△585,534	△2,306,505	2,190,221	△701,818	764	△701,054
当期末残高	10,000	1,271,747	△703,266	578,480	12,538	591,019

当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位: 千円)

	株主資本				新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
当期首残高	10,000	1,271,747	△703,266	578,480	12,538	591,019
当期変動額						
新株の発行				—		—
減資				—		—
欠損填補		△675,164	675,164	—		—
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)			△152,532	△152,532		△152,532
新株予約権の発行				—		—
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				—	5,481	5,481
当期変動額合計	—	△675,164	522,632	△152,532	5,481	△147,051
当期末残高	10,000	596,582	△180,634	425,948	18,020	443,968

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失 (△)	△698,560	△140,816
減価償却費	6,500	14,748
のれん償却額	2,434	5,841
投資有価証券評価損益 (△は益)	3,000	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,493	2,455
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△25,950	8,188
受取利息	△155	△1,531
支払利息	19,617	33,061
為替差損益 (△は益)	△1,740	235
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	34,620	△120,108
リース債権の増減額 (△は増加)	△23,303	△13,058
棚卸資産の増減額 (△は増加)	42,001	△167,482
仕入債務の増減額 (△は減少)	△25,544	59,234
未払法人税等 (外形標準課税) の増減額 (△は減少)	△34,280	—
契約負債の増減額 (△は減少)	16,532	32,512
その他の資産の増減額 (△は増加)	△214,419	8,230
その他の負債の増減額 (△は減少)	△171,359	48,497
その他	1,918	7,105
小計	△1,067,196	△222,885
利息及び配当金の受取額	155	1,531
利息の支払額	△19,975	△34,185
法人税等の支払額	△4,420	△2,337
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,091,436	△257,877
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△40,000	△40,500
定期預金の払戻による収入	40,000	47,800
定期積金の預入による支出	—	△90,000
有形固定資産の取得による支出	△5,386	△20,024
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	33,779	—
保険積立金の解約による収入	10,804	—
その他	847	△5,288
投資活動によるキャッシュ・フロー	40,044	△108,012
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	300,000	480,000
短期借入金の返済による支出	△150,000	△450,100
長期借入れによる収入	400,000	580,000
長期借入金の返済による支出	△356,790	△383,647
リース債務の返済による支出	△806	△2,761
その他	1,497	2,316
財務活動によるキャッシュ・フロー	193,900	225,807
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,740	△235
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△855,750	△140,316
現金及び現金同等物の期首残高	2,090,722	1,234,971
現金及び現金同等物の期末残高	1,234,971	1,094,654

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号2022年10月28日)及び、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日)を当連結会計年度の期首から適用しています。これによる、連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

報告セグメントの決定方法及び各報告セグメントに属するサービスの種類

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、自動車産業DX事業及びホリゾンタルDX事業を報告セグメントとしております。自動車産業DX事業においては、「カーリースカルモくん」の事業運営を主軸として、幅広い車種の新車及び中古車を対象としたマイカーのサブスクリプションサービスを提供しております。ホリゾンタルDX事業においては、主にDX&マーケティングに関するコンサルティング支援及びメディアの開発・運営を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業損失ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	自動車産業DX事業	ホリゾンタルDX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,148,870	2,316,265	5,465,135	—	5,465,135
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,148,870	2,316,265	5,465,135	—	5,465,135
セグメント利益又は損失(△)	△740,928	438,115	△302,813	△375,156	△677,969
セグメント資産	962,301	256,196	1,218,498	1,694,136	2,912,635
その他の項目					
減価償却費	4,586	1,507	6,094	406	6,500
のれん償却額	2,434	—	2,434	—	2,434
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	3,484	—	3,484	1,315	4,799

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失 (△) の調整額△375,156千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない現金及び預金等であります。
- (3) 有形固定資産の増加額の調整額1,315千円は、報告セグメントに配分していない全社資産に係る設備投資額であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位: 千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	自動車産業DX事業	ホリゾンタルDX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,457,117	2,273,171	6,730,288	—	6,730,288
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,457,117	2,273,171	6,730,288	—	6,730,288
セグメント利益又は損失 (△)	△230,527	458,072	227,544	△333,291	△105,746
セグメント資産	1,037,256	336,005	1,373,261	1,769,006	3,142,268
その他の項目					
減価償却費	12,796	1,451	14,247	500	14,748
のれん償却額	5,841	—	5,841	—	5,841
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	19,219	—	19,219	3,888	23,107

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失 (△) の調整額△333,291千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない現金及び預金等であります。
- (3) 有形固定資産の増加額の調整額3,888千円は、報告セグメントに配分していない全社資産に係る設備投資額であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
1株当たり純資産額	67.76円	49.90円
1株当たり当期純損失(△)	△82.38円	△17.87円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
純資産の部の合計額(千円)	591,019	443,968
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	12,538	18,020
(うち、新株予約権(千円))	(12,538)	(18,020)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	578,480	425,948
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	8,536,800	8,536,800

3. 1株当たり当期純損失(△)の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
1株当たり当期純損失		
親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	△703,266	△152,532
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△703,266	△152,532
普通株式の期中平均株式数(株)	8,536,667	8,536,800
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権5種類(新株予約権の数41,226個)	新株予約権6種類(新株予約権の数48,899個)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。